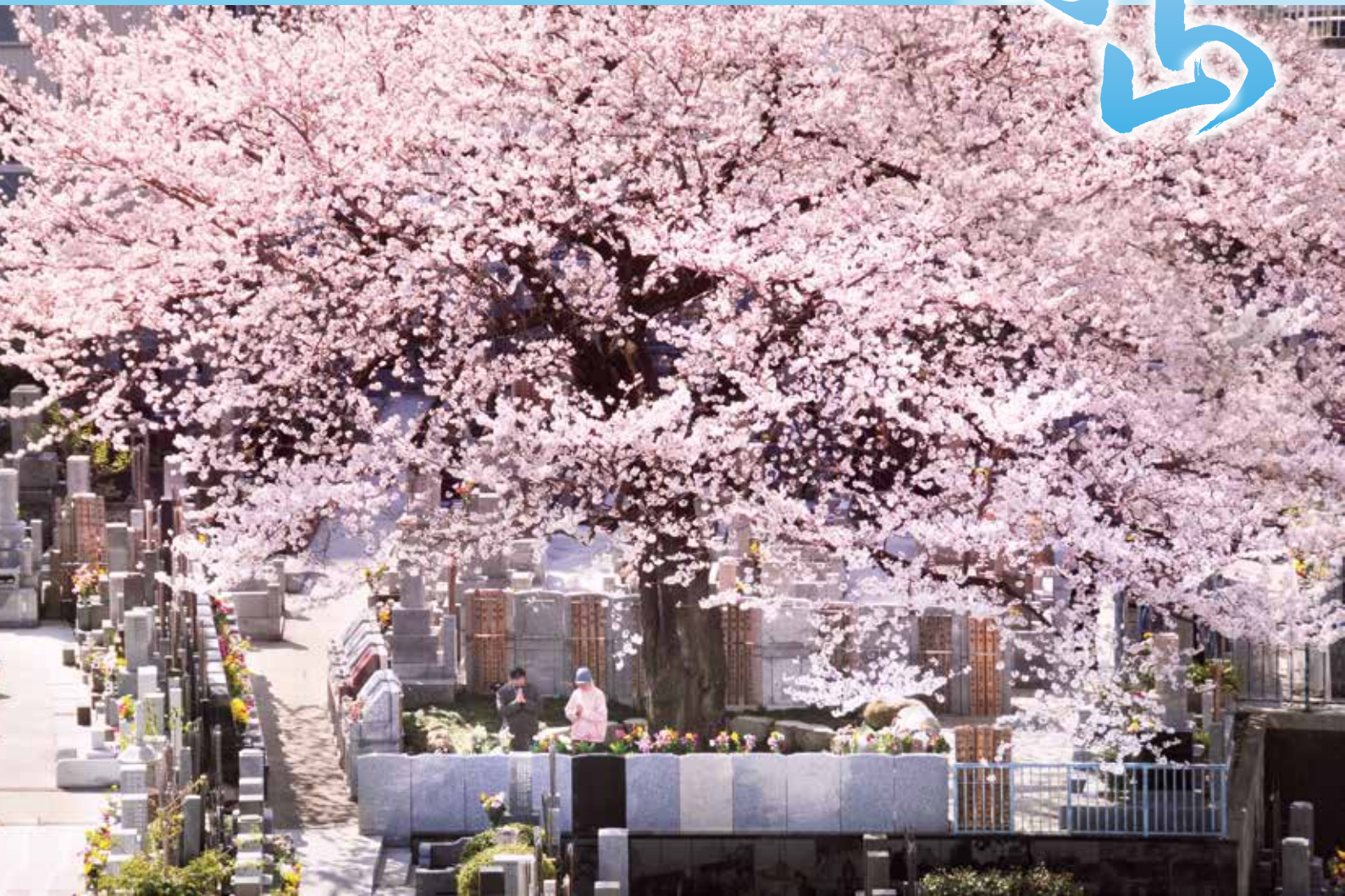


梅窓院通信

No.111

2021/03/01

青山



ご先祖様への感謝の気持ちを大切に合掌。満開の桜の下で。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成

今年の新年はコロナ禍のピークで迎えることになりました。初詣も分散して、と言われていましたが、梅窓院の元旦のお参りは、用意していたペットボトルのお茶を温める時間も取れないほど、想像を超えた参詣を頂きました。快晴に恵まれたこともあったのでしょうか。修正会法要ではお焼香だけのお参りを願っていました。その列が途切れることなく続きました。



当院も新型コロナウイルス感染症防止対策をしてお迎えしていますが、参詣者の皆様も手指の消毒、マスク着用はもちろん、公共交通機関を避け、ご家族の皆様が車に同乗されて参拝されるなど、十分な対策をとって頂けたようです。また、普段でしたら初詣では家内安全や無病息災、病氣平癒などが祈念されますところを、今年は疫病退散、コロナが一日も早く終息することを祈念されたに違いありません。本堂に一刻も早く平穏な日常が戻ってくることを祈るばかりです。梅窓院では六月までの行事は中止、七月以降につきましては状況を見ながら判断しますが、十月の文化講演会だけは先着五十名で開催する予定です。

さて、話は変わって樹木葬の梅林苑合同納骨法要を昨年十二月に続き、二月七日(日)に行いました。その名の通り、寺名にもある梅が咲き始める頃の開催が毎年恒例となっています。

最後に工事のお知らせです。梅窓院の建物も早いもので十九年目に入ります。その為、皆様に快適にお参り頂けるよう、昨年に引き続き、今年もメンテナンス工事を行います。参詣時にご迷惑をお掛けするかもしれませんが、どうぞご理解ご協力をお願い申し上げます。

三春について

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

俳

諧歳時記では四季の各季について季の三分という区分けをして、それぞれに季語を配当配列する。たとえば春であれば、初春・仲春・晩春と三つに分けて称し、初仲晩の三期に通ずる季語は三春としてまとめられるのである。言うところの三春・初春・仲春・晩春という春の季の四区分が、ここに定まるのである。

俳諧俳句の世界では現在でも旧暦・陰暦に従っているが、その考え方では一応の目安として一月が初春、二月が仲春、三月が晩春ということになり、現行の新暦の季節感とは少しくずれてしまふのがいたしかたない。今回は、山本健吉『基本季語五〇〇選』（講談社刊）に集められた例句から仏教句を中心に鑑賞したい。山本は、各季節の項目の配列に「時節・氣象・暦日・山野・園芸・水沢・海洋・田園・行事・飲食・衣類・住居・遊戯・雑」という独自の方式を定めるなど、俳句の理解と鑑賞にすぐれた識見を持つ人である。

まず春全体に通ずる三春句である。

暖かや仏飯につく蠅一つ (蛇笏)
 春天に鳩をあげたる伽藍かな (茅舎)
 この庭の遅日の石のいつまでも (虚子)
 飯田蛇笏の句は、春の暖かさをおお

らかに作句したものであるが、白いご飯と一匹の黒い蠅の対照にしさかの含意がある。一方、川端茅舎は「鳩をあげたる」という中七を効かせて、おだやかな春の天空をいたたく寺院の佇まいを捉えた。そして虚子である。「龍安寺」という前書の添え字があり、うらうらとした春の日永に、日本を表する石庭が静かに「いつまでも」ある、とやはり静かに写生した。

次に初春句である。

落葉焚いて春立つ庭や知恩院 (虚子)
 春めくと枯木の枝の日の微塵 (素逝)

立春の日、知恩院参詣の虚子は数え年二十一歳の京都第三高等中学の学生、明治二十七年の句である。長谷川素逝の句は、春動く・春兆すという寒気から暖気へと移って行く日差ししの微塵のこぼれ日を詠んだものである。「微塵」という仏教語をもつて、これも仏教句であるとしたのである。そして陰暦仲春は、行事としての二月涅槃会があり、暦日としての春彼岸もまたこの季に含まれるのである。

しろくぐと寝釈迦の顔の胡粉かな (虚子)
 手に持ちて線香売りぬ彼岸道 (虚子)

虚子は比叡山と縁深く、また諸寺院での句会や仏僧とも交流多く、いわゆる仏教句と数えられる句も多い。仏教季語の一つひとつも決しておろそかにせず大切にに取り扱われているように、心から思われるのである。

花の寺少女の笑ひ二間越ゆ (龍太)
 桃は釈迦李はイエス花盛り (甲子雄)
 紫雲英咲く小田辺に門は立てりけり (秋櫻子)

さて、晩春句。飯田龍太は桜の花の中の笑い声に心を留めた。福田甲子雄は桃の花、李の花の咲きそろったありさまを作句したが、季語は桃であり、ここでは釈迦を主に立てて、イエスを従と見たい。「秋篠寺」と前書のある水原秋櫻子の句には、奈良大和国のまほろばの中にのどかなるげんげ田が広がっている。

春の季節を通して、ともかくおだやかに、やすらかに過ごしたい。暖かさをあたたかし・ぬくとしと感じ、麗かさをうららかに・うららかに受けとめ、のどか・のどやか・のどろかなる気分にくちくまで浸り、永日・日永の一日をつつがなく過ごして、暮遅し・暮れなずむ・暮れがたし遅き日、つまり遅日を、なにはともあれ静かに全うさせていただくのである。(大正大学名誉教授)

一月の行事報告

修正会 一月二日(金)



中島住職が疫病退散も祈念した今年の修正会。



泰平観音様には鏡餅、山門には門松、受付にはズ飾り、お正月ならではのつらえです。



彼岸寄席・郡上物産展・お呈茶

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となりました。

春彼岸法要 午後1時～2階 本堂にて

※春彼岸会法要は梅窓院僧侶のみで厳修し、お塔婆は法要後に僧侶にて建てさせていただきます。

なお、寺院内マスク着用に限りお焼香のみ可能ですが、ご参列・ご着席は頂けませんのでご注意ください。

また、法要の様子をライブ配信予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.baisouin.or.jp/>



梅窓院ホームページのQRコード

塔婆申込み方法

同封のはがきを使い**3月10日(水)必着**でお申込み下さい。

塔婆回向料は**1本7,000円**とさせていただきます。

お支払い方法

同封の振込用紙で**郵便局**にてお支払い頂くか、**当院受付**までお持ち下さい。

(銀行でのお振込みはできません。)

お檀家様へお願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は感染症対策をした上で電車等、公共交通機関をご利用下さい。
- 3月17日～23日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。

春彼岸法要

三月二十日(土)

春彼岸会によせて

まだまだ寒い日が続いておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、本誌の次項より梅窓院の泰平観音様が特集で取り上げられておりますので、基本的な観音様についてお話し致します。

観音様は正式には、観世音菩薩くわんぜおんぼさつといい、古い漢訳では観自在菩薩くわんじざいぼさつともいいます。インドの古い言葉で「観る」と「自在」を意味する言葉を合せたものが元になっています。そして、観音様は迷い苦しむ私達衆生が全宇宙のどこにいたとしても、必ず見つけて救って下さるというありがたい菩薩様なのです。

菩薩とは悟りを求める修行者という意味ですが、観音様を「阿弥陀様の後継者」とする経典もあるほど高位の菩薩様です。観音様は、菩薩様から仏様へ、いつでも成仏できる身でありながら、あえて菩薩のまま、輪廻の世界にある私達に身を寄せ、いつまでも私達をお救い下さるのです。

『観無量寿経』には次のように説かれています。その身から放たれた八万四千の光明の中に五道天・人・畜生・餓鬼・地獄の輪廻に迷う衆生が映し出され、一々の光明に無数の仏様の分身がいらつしやり、その無数の分身の一々にまた無数の菩薩の分身がいらつしやり、変現自在に仏様や菩薩様の分身が世界中を満たして、所せましと咲き誇る紅蓮華のようである。また、その掌から五百億の蓮華を咲かせ、その十本の指の一々に八万四千の文様がある。その文様の一々に八万四千の色があり、その色の一々に八万四千の光がある。そして、その光は柔らく全世界を照らして、差し伸べられた宝のような手はあらゆる衆生を極楽の世界へと救い導いて下さるのです。

観音様は勢至菩薩様と共に、阿弥陀様の脇侍の菩薩でもありながら、阿弥陀様と違った立場で私達をお救い下さることから観音様への熱心な信仰が続いているのでしょう。さて、本年も春彼岸が近づいて参りました。今回の法要も動画配信にはなりませんが、私達と一緒に修行下さる観音様と共に称えるお気持ちでお十念頂けると幸いです。ごさいます。

(法務部／中島真紹) 合掌

令和3年 春のペット慰霊法要のお知らせ

梅窓院の僧侶のみで厳修致します。

法要の様子をライブ配信予定です。

詳しくはホームページをご覧ください。

配信開始時間: 午前11時～

2階 本堂にて

主催: 株式会社ジャパンエキスパートシステム



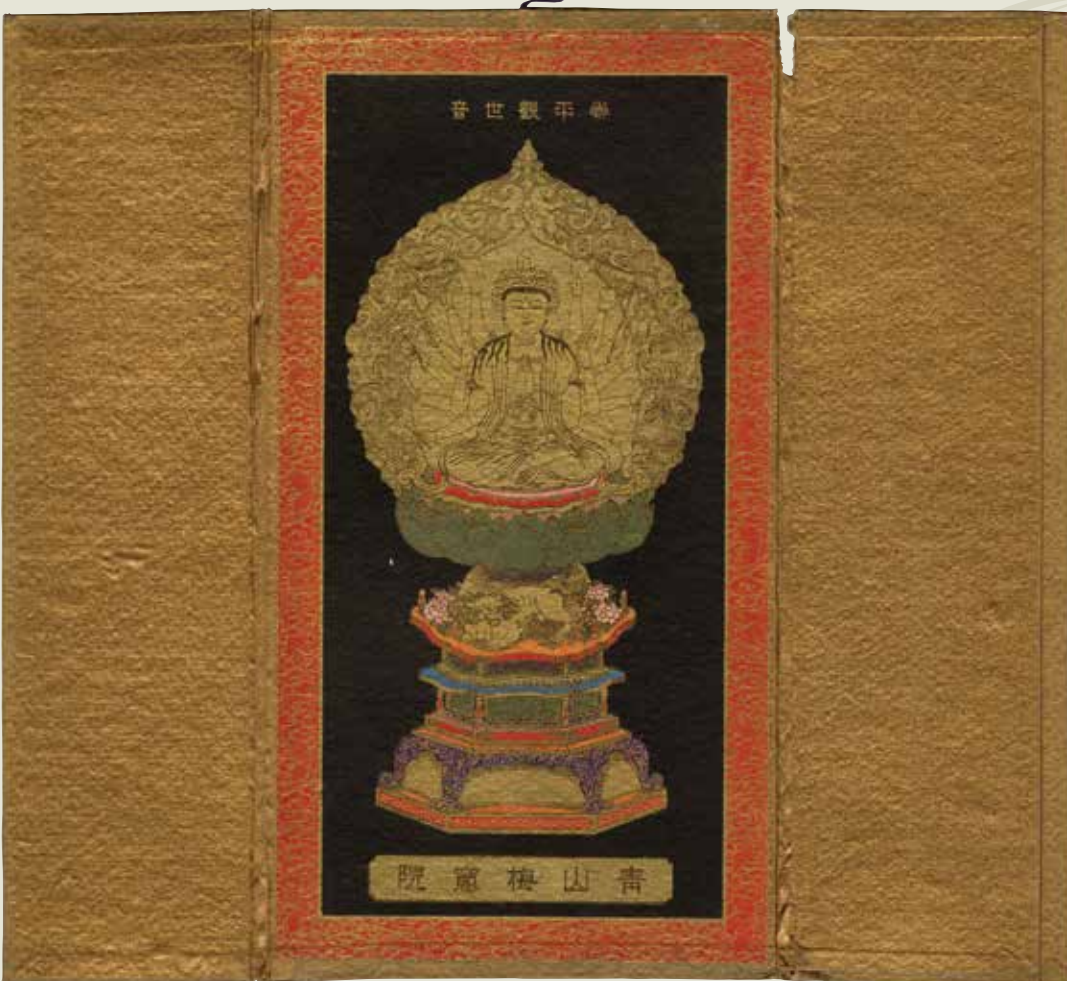
春彼岸とは

昼と夜の長さが一緒になる彼岸の中。この日をはさむ前後三日間、合わせて一週間が彼岸になります。お彼岸は春と秋の年二回、修行に励むためのものですが、お墓参りという功德を積むことも立派な修行と考え、ご先祖様をご供養し、そして近況をお知らせしましょう。

「靈驗あらたか！」

泰平観音様の

由来を紐解く



絵像として今に伝わる泰平千手観音様。

梅窓院の泰平観音様は、江戸三十三観音の一つですが、実はその由緒はとても古く、梅窓院創建をはるかに越え、またご利益も凄いものだったのです。今回はその由緒を紐解き、ご利益にまつわる話をお届け致します。

い くつもの手を持ち座っている観音様（写真上）。お像の大きさは三寸三分、約10cmの大きさの千手観音様です。誌面では初公開となります。実はこちらこそが、かつて梅窓院にあったとされる泰平観音様のお姿です。そしてページ左上の観音様が、現在、観音堂で皆様をお迎えしている泰平観音様です。

お檀家様の中には、梅窓院の観音堂（写真下）を覚えている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。戦前は泰平観音様のご利益にあずかろうと、地方からも参拝者が当院を訪れていました。月に三日（三、十七、二十三日）催される縁日には門前の青山久保町通り（現青山通り）に多くの夜店が並び、大変な賑わいをみせていたそうです。それもそのはず、「縁結びの観音」、「安産の観音」として「青山のお観音様」と呼ばれ、明治・大正・昭和と参詣者があとを絶たないほど大人気だったからです。



▼ かつての観音堂内陣。

▲ 観音様が奉安されていた観音堂。戦火で消失してしまった。

この観音様の謂れを、「泰平観世音縁起 青山 梅窓院」（『梅窓院史』平成十六年梅窓院発行より）によって辿りましょう。

梅

窓院の泰平観音様は、今を遡ること千四百年前に三蔵法師がインドから中国(唐)へ伝え、奈良時代に鑑真和尚が唐から招来、聖武天皇に献上されました。その後、行基菩薩が東大寺へ奉安します。この間に観音様の靈験で流行っていた疫病が退散したと記されています。

時は下り平安時代、源頼義公親子が奥州追討の際に念持仏として観音様を奉持し陣中守護とされました。そして奥州は平定され泰平の世となりました。これも観音様のおかげと、泰平御堂を建立し、その泰平をつけて泰平千手観音様として安置されました。その後、源頼朝公の藤原一族追討、やがて清和源氏の流れを汲む奥州を治めた南部

家に伝えられました。

月日は流れ江戸時代、南部家から青山家に嫁入りした姫君とともにその泰平千手観音様は江戸へ。青山家の仏間にお内仏として祀られる前に、その靈験あらたかなことを聞いた徳川六代將軍の正室(天英院)より、「大いなるご利益ある観音様を拝ませたまえ」とのことで江戸城へ。その後もあちこちの姫君が拝んで、ご利益にあやかりたいという所望が続きました。

こうした由緒を持つ観音様ですから、庶民の間でも大人気。青山家の菩提寺・梅窓院の観音堂に祀られてからもお参りの列が絶えることはありませんでした。そして同じ資料に二つの靈験話が記されています。一つは奥州の頃の話で、

生まれつき身体に不自由のあった女の子の両親が泰平千手観音様に祈念したところ、病が治ったうえ美しく生まれ変わったという逸話。

もう一つは江戸での出来事。知人にだまされ金策尽きた夫婦が、一人娘の身売りを決めました。その話を聞いた娘は自分の身を憂い、梅窓院へお参りにきました。すると何処からともなく僧が現れ、娘に金子を渡しました。娘が僧



現在の観音様修復前のお姿。

に名を問えば「この寺の泰平坊」と答えました。授かった金銭のおかげで娘を売らずに済んだ夫婦が後日、お礼にすると「その名の僧はここにいないが、観音様は奥州時代に泰平堂にいらしたので、その名を名乗ったと思う」とのこと。その後、親子は苦難を乗り越え安穩に暮らしたと伝わっています。

さて、この泰平千手観音様は残念ながら行方不明になってしまいます。理由は何度も江戸を襲った火事で焼失した、戦後に盗難にあった、など諸説があり、定かなことは分かりません。新たな観音様が奉安され、千手観音ではないことから泰平観音となりました。

その観音様も修復され、現在は観音堂で皆様をお迎えしています。名に泰平を冠する観音様は梅窓院の観音様だけです。そう呼ばれるのは、こうした古くからのご利益とエピソードを持った観音様だからなのです。

〈お知らせ〉

観音様についてのお話は誌面三ページの「春彼岸会によせて」で紹介されています。また、入壇時にお渡しした『梅窓院史』の著者、宇高良哲上人に秋の文化講演会でお話し頂きますのでお楽しみに。



現在の泰平観音様。
1階観音堂で皆様をお迎えしています。

◆本日はよろしくお願い致します。

永楽堂板橋店までようこそ。よろしくお願い致します。

◆広い店内に色々な仏具が並んでいる中、5000万円を超える仏壇がさりげなく置いてあったのですが……。

驚かれますよね。あの仏壇は老山白檀という特別な材質で、日本に3基しかない貴重なものからです。

◆家一軒と同じ値段の仏壇を扱っているのですね。そして、神道の道具もありますね。

はい、この店は私が3代目ですが、創業した祖父が三重県伊勢出身でした。伊勢といえば伊勢神宮です。それで神具も扱っています。

◆梅窓院とのお付き合いはいつからですか。

5年ぐらい前からです。知人が梅窓院さんにご縁ができたことがきっかけです。

◆一昨年の秋彼岸では梅窓院の観音堂で展示会を開かれましたね。

はい。梅窓院さんからお声掛けを頂き、出展させて頂きました。

◆その後、新型コロナウイルス感染拡大で世の中が一変しましたが、仏壇仏具屋さんの業界はいかがでしょう。

東京にはおよそ100社のお店がありましたが、半分の50社ほどになりました。

もちろん、コロナの影響も大きいのですが、大体20年ほど前から皆さんの仏壇への意識が変わってきていました。それをコロナが後押しした、と言ってもよいかと思います。

◆なるほど。

当店の2代目である父は、いわゆる従来からの大きさの仏壇にこだわっていました。その先代が15年前に病気にかかり、私が29歳で3代目となりましたが、すでに仏壇の小型化、家具調へと移行の渦中でした。



板橋店内で仏壇を背景に中島住職と 代表取締役。

◆変化の中での就任だったのですね。代表取締役にいられてから、どのような事業を行いましたか。

はい、本店を巣鴨店に移転しました。

◆巣鴨というと「おばあちゃんの前宿」と呼ばれるあの商店街ですね。確か入ってすぐの左手にお店があって、お線香の売り上げ日本一でしたか。

よくご存知ですね。お年寄りの街で仏具店にはありがたい街です。よく取材も受けていて、有名でしたので本店にしました。

◆そうですか。 様の経営姿勢をお聞かせ頂けますか。

そうですね、自分で言うのも変ですが、商売上手な方ではありません(笑)。

お見え頂ける方の8~9割は不幸があって来られます。ですので、そうしたお気持ちを大切に、そのような中でも心穏やかにお買い物してもらえることを第一に考えています。その思いを受け止めて下さった方はリピーターになって頂いています。

◆本日はどうもありがとうございました。



優しさがにじみ出る 代表取締役。
インタビュー中も笑顔で対応してくれました。

食は命

食養研究家
武鈴子

第八十二回

春の山菜や野菜はいずれも個性味を持っています。3月3日のひな祭り、5月5日の端午の節句に、草餅の材料として用いられるよもぎは、昔から、「万病の薬」といわれ、日本だけでなく世界各地で薬として使われてきました。別名「血止め草」と呼んで、切り傷にはよもぎの葉を揉んでつけたり、冷え性にはよもぎ風呂がよいと重宝されてきました。漢方では、乾いた葉は「艾葉」と呼び、キク科特有の苦味成分のほか、揮発成分もあるため、冷やす作用だけでなく温める作用も持ち合わせています。吐血、下血、子宮不正出血を除き、また子宮を温めて懐妊する効能もあるとされています。海外でも出産に関する効能が多く伝えられていて、「ハーブの女王さま」と呼ばれているようです。

草餅やよもぎ団子は、近年、よもぎの粉末が市販されているので、手軽に作ることができるようになりましたが、春の摘み草にはかきません。アク抜きに手間をいやがらず、新鮮なよもぎの香り漂うエネルギーを頂きながらの手造りを楽しんでみてはいかがでしょうか。

①よもぎの新芽250gは、熱湯に重曹少々を加えて柔らかく茹でる。水洗いを数回繰り返してアクを抜き、水けをきって刻む。黒砂糖250gを加えて混ぜ、数時間ねかせて砂糖をなじませる。②上新粉500g、やまいものすりおろし150gをボウルに入れ、①を加えてよく混ぜ合わせる。適当にかたどって15分蒸すとできあがり。

そうゆうくんブログ 出張版

本誌では、観音様が特集されています。その観音様というお名前を聞くと、松原哲明さんのことを思い出します。東京三田の龍源寺というお寺のご住職でした。

松原さんに赤ちゃんが生まれ、すぐに亡くなったときのことを書かれています。浩明くん、と命名しました。自分の子が、死ぬなんて思ってもいなかった。泣いて泣いて泣きまわった。妹さんが「そんなに泣いていたら気が狂うよ」と声をかけてくれたけど、気が狂った方がよっぽど楽だと思ったそうです。そのときのことをこう綴ります。



そうゆうくん。

「お通夜とかお葬式はみんな人がどんどん進めてくれました。赤ちゃん用の小さな棺が来て、そこに体をおさめました。お宮参り用の着物を着せて、花をたくさん入れました。

お数珠とお線香、おもちゃも。お弁当と書いて、お乳を袋に入れ持たせました。耳のそばに自分と妻の写真をピタと貼りました。火葬するときのゴーという音を聞かせるのがかわいそうだったから」。

そして、最後に観音様の写真を持たせます。

「この子はまだ小さな子です。もし途中で道に迷うようなことがあったらどうかこの子の手をつないでやってください」と。

自身の力ではどうにもならないとき、いかなる悲しみも受け止めてくれる存在。それが松原さんの観音様だったのかもしれない。

【そうゆうくん】

梅窓院のベテラン僧侶。博識かつ頼れるリーダーシップから皆に慕われている。アメブロ不定期更新中。



そうゆうくんブログのQRコード

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○水仙にふれてはならぬ傷のあり

◎入選

○公園のベンチを濡らし初時雨

○クリスマス街と女性が輝いて

○煌々と街を見下ろすオリオン座

○ストーブの上のやかんが鳴り響く

○マスクして眼鏡がくもり視界ゼロ

○数へ日のマグカップにはアメリカン

○ふと気づくまん丸な月小晦日

○水仙を活けてひとりの夜となり

○夕時雨小走りにゆく人と犬

○悴む手尻で温める会議室

◎選者詠

○霜柱踏んでは道にもどりくる

大崎 紀夫

ワンポイントアドバイス

「コロナ禍についてたくさん俳句が詠まれています。しかし、多くが「コロナは怖いとか大変だとかいうもので心にせまってくるものがあります。東日本大震災のときも、やれ残された一本松がどうのとかのつまらない句が山ほど作られました。その中で高野ムツオという人は「陽炎より手が出て握り飯掴む」というみごとな句を作りました。ここには心にせまるイメージがあります。つまり、深刻な状況を句に詠むには、イメージで勝負することも必要だ、ということかもしれません。」

投句募集

今回は「春の季語」でご自由にお詠み下さい。4月5日(月)を締切、2021年6月発送の『お盆号』にて発表致します。郵送・FAX・メールのいずれかの方法で、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。

皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係
FAX:03-3404-8436(青山文化村)
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室
電話:03-5368-1870

ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

日常的にマスクの着用をする機会が増えていますね。けれど顔の半分が隠れてしまうと、お声がけする際に迷ってしまうことがあります。恐らく先方も同じだと思うので先に「こんにちは森です」と名乗っております。皆様をお願いします。お名前を先にお願ひします。

先日、空いている境内の駐車場で駐車に苦勞されている方がいらっしゃったので伺ったら「明後日、母を連れてお参りに来るので今日は駐車の練習に来ました」って！ お墓参りご希望の高齢のお母様を電車で乗せるのは怖いからと予行練習をされていました。皆さん色々頑張ってお参りにいらっしゃいます。それでもやはり心配な場合は、どうぞ代参を依頼して下さい。

お正月のときの代参は今までにない程の数のご依頼を頂き、スタッフで心を込めて代参させて頂きました。先日70代の方が90代の親御さんを墓参に連れて来たら、しばらく腰痛で動けなかったと仰っていました。ご自身の身体も労わって下さいね。

(墓苑部・森)

行事予定

春彼岸会法要

3月20日(土)

法要 午後1時～ 本堂

※YouTubeにて法要の様子を配信予定です。
詳細は3面をご覧ください。

はなまつり

4月3日(土)～8日(木)

寺院棟2階 本堂

お釈迦様の誕生日をお祝いする「はなまつり」。寺院棟2階本堂エントランスに花御堂がご置かれています。皆様どうぞご参拝下さい。

※甘茶の提供はございません。



大施餓鬼会法要

5月15日(土)

※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。

開山忌法要

6月12日(土)

※詳細は施餓鬼号にてお知らせ致します。



お檀家さんに伺いました

『大切な人を想ってここに』

(令和2年 墓参時にて)

元々、先祖代々の墓所は東海地方にあったのですが、月1回墓参に行くことが難しくなり、都内で通いやすい場所を探し、梅窓院にお墓を持ちました。

墓苑内がいつも綺麗に整備されており、檀家さんへの思いやりを感じます。現在は週3回程度お参りに来ていますが、これからも思いやりのある寺院であり続けて欲しいです。

お知らせ

梅窓院では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、下記の催しを中止とさせていただきます。

- ◎令和3年度前期仏教講座
- ◎郡上物産展(春彼岸会)
- ◎彼岸寄席(春彼岸会)
- ◎念仏と法話の会(6月)
- ◎能楽奉納・写経会(開山忌)

梅窓院行事中止について



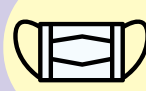
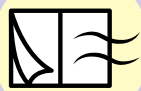
7月以降の行事開催につきましては随時お知らせ致します。尚、しばらくの間、大法要は梅窓院僧侶のみで厳修し、その様子をYouTubeにてライブ配信予定です。

墓参される皆様へ

梅窓院では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、安全衛生対策を強化し、各所に除菌水の設置や換気の対応をしております。ご来寺された際、手指消毒にご利用下さい。

また、マスクのご持参・ご着用、咳エチケットなど可能な範囲にてご協力頂けますと幸いです。

体調にご不安のある方はくれぐれもご無理をなさらないようお願い致します。大変恐縮ですが、どうぞご理解とご協力のほど、宜しくお願い致します。



発行 行／梅窓院
発行 日／令和3年3月1日
発行 人／中島 真成
編集 集／青山文化村
住所 所／〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38

電話 話／03-3404-8447
FAX 話／03-3404-8107
ホームページ／<https://www.baisouin.or.jp/>
E-Mail 宛／jodo@baisouin.or.jp
題字 主／中村康隆元浄土門主 総本山知恩院第八十六世門跡